

指標No.	指標	対象	集計方法等	策定時	実績				実績	目標値	所管課					
				平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度							
市民一人ひとりの健全な食生活の実践																
1	食育に関心がある市民の割合	(20歳以上)	「関心がある」 「どちらかと言えば関心がある」	77.0%	75.6%	△	75.8%	○	75.2%	△	75.6%	○	90.0%	食育・花育センター		
2	食事バランスガイド等を参考にしている市民の割合	(20歳以上)	「特に参考にしていない」を除く	59.2%	57.7%	△	55.7%	△	58.5%	○	57.8%	△	70.0%	食育・花育センター		
3	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	(20歳以上)	1日2回以上	71.7%	72.1%	○	69.0%	△	71.5%	○	68.2%	△	80.0%	食育・花育センター		
4-1	朝食を欠食する市民の割合[成人] (20歳代男性)	(20歳代男性)	「ほとんど食べない」 「週に1～2回食べる」	17.9%	23.8%	△	32.8%	△	23.6%	○	31.8%	△	15.0%	食育・花育センター		
4-2	朝食を欠食する市民の割合[成人] (30歳代男性)	(30歳代男性)	「ほとんど食べない」 「週に1～2回食べる」	23.4%	25.5%	△	21.7%	○	12.8%	◎	12.5%	◎	15.0%	食育・花育センター		
5	内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を 認知している市民の割合	(20歳以上)	「言葉も意味も知っている」 「大体知っている」	78.8%	78.1%	△	80.7%	○	80.8%	○	81.6%	○	90.0%	健康増進課		
6	内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の 該当者及び予備軍の割合	(20歳以上)	実測	28.1%	27.6%	△	27.5%	△	27.7%	●	—	—	23.0%	健康増進課	H27実績は10月確定予定	
7	内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための 適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合	(20歳以上)	「実践して、半年以上継続」	29.7%	H25	-	-	29.7%	-	27.5%	△	29.7%	○	50.0%以上	健康増進課	
8-1	1日60分くらい体を動かす生活を実践している市民の割合 (男性)	(20歳以上男性)	「実行しており、十分に習慣化している」 「実行しているが、まだ習慣化していない」	27.5%	H25	-	-	27.5%	-	27.0%	△	26.4%	△	40.0%以上	健康増進課	
8-2	1日60分くらい体を動かす生活を実践している市民の割合 (女性)	(20歳以上女性)	「実行しており、十分に習慣化している」 「実行しているが、まだ習慣化していない」	23.8%	H25	-	-	23.8%	-	22.4%	△	21.4%	△	40.0%以上	健康増進課	
9-1	運動習慣を有する市民の割合 (男性)	(20歳以上男性)	「有している」	28.5%	H25	-	-	28.5%	○	24.8%	△	27.6%	○	40.0%以上	健康増進課	
9-2	運動習慣を有する市民の割合 (女性)	(20歳以上女性)	「有している」	24.0%	H25	-	-	24.0%	○	21.2%	△	21.1%	△	40.0%以上	健康増進課	
11	肥満の市民の割合	(20～60歳代男性)	BMI25以上 (申告を基に算出)	25.9%	26.3%	△	25.7%	○	22.8%	○	23.4%	△	15.0%	健康増進課		
12	低体重(やせ)の市民の割合	(20歳代女性)	BMI18.5未満 (申告を基に算出)	19.7%	25.3%	△	23.7%	○	24.6%	△	18.3%	○	15.0%	健康増進課		
13-1	食の安全に対して関心を持っている市民の割合	(20歳以上)	「関心がある」 「ある程度関心がある」	-	89.0%	-	88.5%	△	91.4%	◎	89.7%	△	90.0%	食の安全推進課		
13-2	食の安全に関する知識を持っていると思う市民の割合	(20歳以上)	「持っている」 「ある程度持っている」	58.6%	68.6%	◎	67.8%	◎	70.5%	◎	68.9%	◎	65.0%	食の安全推進課		
14-1	食育の推進に関わるボランティアの数 (食生活改善推進委員)	(食生活改善推進委員数)	-	490人	492人	○	469人	△	476人	○	456人	△	730人	健康増進課		
14-2	食育の推進に関わるボランティアの数 (農村地域生活アドバイザー)	(農村地域生活 アドバイザーの人数)	-	201人	189人	△	189人	●	136人	△	128人	△	260人	農業政策課		
14-3	食育の推進に関わるボランティアの数 (人材育成制度に基づき育成された人数)	(食育マスター登録人数)	-	-	26人・団体	-	41人・団体	○	60人・団体	○	84人・団体	○	100人・団体	食育・花育センター		
15	食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数	(健康づくり支援店 指定店舗数)	-	429店舗	457店舗	○	471店舗	○	483店舗	○	486店舗	○	500店舗	健康増進課		
16	よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある市民の割合	(20歳以上)	「関心がある」 「どちらかといえば関心がある」	75.2%	74.8%	△	71.3%	△	71.1%	△	69.6%	△	80.0%	健康増進課		
17-1	過去1年間に歯科健康診査を受診した市民の割合 (40歳代)	(40歳代)	「この1年間に歯科検診を受けた」	18.4%	H24	18.4%	-	48.1%	-	48.1%	●	51.9%	◎	20.0%以上	健康増進課	
17-2	過去1年間に歯科健康診査を受診した市民の割合 (50歳代)	(50歳代)	「この1年間に歯科検診を受けた」	25.7%	H24	25.7%	-	48.3%	-	54.7%	○	52.9%	◎	30.0%以上	健康増進課	

◎目標を上回った(達成)、○直近の実績値と比較して目標に近づいた、●維持、△直近の実績値と比較して数値が下がった(悪化した)

指標No.	指標	対象	集計方法等	策定時	実績				実績	目標値	所管課	
				平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度			
健やかな子どもの成長												
18	食事時に家族の会話ができてきている市民の割合	(20歳以上)	「大切だと思っているしできてきている」 「大切だと思っているしだいたいできてきている」	66.3%	70.7% ◎	70.0% ◎	73.4% ◎	69.5% △	70.0%	食育・花育センター		
19	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	(20歳以上)	-	9回	9.5回 ○	9.5回 ●	9.7回 ○	9.6回 △	10回	食育・花育センター		
20	朝食を欠食する子どもの割合	(小・中学生) (参考)小学生 (参考)中学生	学校へ行く前に朝食をとるか 「とらないことが多い」「全く、ほとんどとらない」	1.1% 0.7% 1.4%	1.2% △ 0.7% ○ 1.5% △	1.5% △ 0.7% ● 1.9% △	1.4% ○ 0.7% ● 1.9% ●	1.4% ● 0.9% △ 1.7% ○	0% - -	保健給食課		
21	肥満傾向の児童生徒の割合	(小・中学生)	実測	7.6% H22	6.9% ◎	7.0% ◎	6.8% ◎	6.7% ◎	7.0%	保健給食課		
22	学校給食における地場産物を使用する割合 (食材数ベース)	(市内産) (参考)県内産	-	15.5% -	15.8% ◎ 31.5% -	15.5% ◎ 31.3% △	15.8% ◎ 31.9% ○	16.7% ◎ 31.9% ●	15.0% -	保健給食課		
23	給食の残食量		-	5.0% H22	4.2% ○	3.3% ○	2.8% ●	2.7% ◎	3.0%	保健給食課		
24	学校教育田等で農業体験を実施している学校の数	(小学校)	-	93校	96校 ○	98校 ○	113校 ◎	110校 ◎	110校	食育・花育センター	小学校統合により 113校→110校	
改 25	3歳児でむし歯(乳歯むし歯)がない幼児の割合	(3歳児)	-	85.2% H24	85.2% -	86.8% ○	87.3% ○	88.7% ○	90.0%以上	健康増進課		
改 26	12歳児(中学校1年生)の一人平均むし歯本数	(中学校1年生)	-	0.71本 H24	0.71本 -	0.56本 ○	0.56本 ●	0.53本 ○	0.46本以下	健康増進課	目標値を第3期教育ビジョ ンの 指標に合わせて修正	
地域の活性化、環境と調和のとれた食料の生産・消費												
27	収穫農園(市民ランド)の参加者の数		家族や友人同士など参加グループ数	384組	364組 △	396組 ○	589組 ◎	548組 ◎	500組	食育・花育センター		
28	市民農園の区画数		-	1,085区画	1,145区画 ○	1,145区画 ●	1,121区画 △	1,047区画 △	1,500区画	食育・花育センター		
29	農林漁業体験を経験した市民の割合の増加			27.0%	26.3% △	28.3% ○	29.4% ○	26.1% △	30.0%	食育・花育センター		
30	農産物直売所の設置数	(スーパーマーケット等の インショップを除く)	-	121箇所	113箇所 △	108箇所 △	109箇所 ○	99箇所 △	150箇所	食と花の推進課		
31-1	地産地消推進の店の認定店舗数 (小売店)	(小売店)	-	70店舗	70店舗 ●	70店舗 ●	69店舗 △	108箇所 ◎	80店舗	食と花の推進課		
31-2	地産地消推進の店の認定店舗数 (飲食店)	(飲食店)	-	169店舗	162店舗 △	161店舗 △	155店舗 △	199箇所 ◎	180店舗	食と花の推進課		
32	学校給食廃食用油の燃料化		新潟菜の花プラン推進指標 (廃油回収料≒BDF精製量)	78,000ℓ	80,000ℓ ◎	95,000ℓ ◎	82,000ℓ ◎	86,000ℓ ◎	70,000ℓ	環境政策課		
33	環境保全型農業に積極的に取り組む 「エコファーマー」の認定者数		-	3,553人	3,366人 △	3,108人 △	3,033人 △	2,219人 △	4,000人	農業政策課		
34	新潟県特別栽培農産物の栽培面積		-	554ha	547ha △	494ha △	446ha △	445ha △	4,200ha	農業政策課		
再 14-1	食育の推進に関わるボランティアの数 (食生活改善推進委員)	(食生活改善推進委員数)	-	490人	492人 ○	469人 △	476人 ○	456人 △	730人	健康増進課		
再 14-2	食育の推進に関わるボランティアの数 (農村地域生活アドバイザー)	(農村地域生活 アドバイザーの人数)	-	201人	189人 △	189人 ●	136人 △	128人 △	260人	農業政策課		
再 14-3	食育の推進に関わるボランティアの数 (人材育成制度に基づき育成された人数)	(食育マスター登録人数)	-	-	26人・団体 -	41人・団体 ○	60人・団体 ○	84人・団体 ○	100人・団体	食育・花育センター		
再 15	食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数	(健康づくり支援店 指定店舗数)	-	429店舗	457店舗 ○	471店舗 ○	483店舗 ○	486店舗 ○	500店舗	健康増進課		
再 22	学校給食における地場産物を使用する割合 (食材数ベース)	(市内産) (参考)県内産	-	15.5% -	15.8% ◎ 31.5% -	15.5% ◎ 31.3% △	15.8% ◎ 31.9% ○	16.7% ◎ 31.9% ●	15.0% -	保健給食課		
再 24	学校教育田等で農業体験を実施している学校の数	(小学校)	-	93校	96校 ○	98校 ○	113校 ◎	110校 ◎	110校	食育・花育センター	小学校統合により 113校→110校	

◎目標を上回った(達成)、○直近の実績値と比較して目標に近づいた、●維持、△直近の実績値と比較して数値が下がった(悪化した)